



予選レポート

2020/9/27 Rd-2 岡山国際サーキット

天候：晴れ 気温：26℃ 出走台数：19台

COVID-19 新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、8月末にようやく開幕した2020シーズンのスーパーフォーミュラは、引続き徹底した感染予防対策を行って、岡山国際サーキットで第2戦を迎える。

2 グループ制が導入されたノックアウト第1予選。

A組の山本選手は、ライバルの動きをモニターしながら、予選残り5分のタイミングでコースイン。タイヤのウォームアップを慎重に行い、3周目にアタックを行う。ブレーキングでミスする場面もあったが、6番手で第2予選へ。

B組福住選手も、山本選手と同じ戦略。残り5分でコースインし、計測3周目にアタックを開始。第1セクターで好タイムをマークするが、第2セクターでハーフスピンを喫し大きくタイムロス。8番手となり第2予選進出ならなかった。

迎えた第2予選。14台が7分のセッションでアタックを行うため、コース長が開催サーキット中最も短い岡山国際サーキットでは、コースインのタイミングが非常に重要となる。ライバルに合わせ6分を切ったところでコースイン。第1セクターのタイムが伸びず、4番手で第3予選へ進む。

第3予選、セットアップを小修正して臨んだ山本選手は、タイヤのウォームアップを慎重に行い、アタックラップに入った3周目、山本選手の後方でスピン車両が発生し黄旗が提示される。すでに現場を通過していた山本選手は影響を受けることはなかったが、チームの判断ミスにより減速。7位で予選を終えることとなってしまった。

5：山本選手 予選7位 (第1予選A組6位 第2予選4位 第3予選7位) HONDA 勢3位

昨日の公式テストから車のアジャストはとても良く進んでいて、第1予選、第2予選まではトップを狙える感触を掴んでいたものの、第3予選ではコンディションの変化に合わず、またチームのオペレーションも上手くいかない部分があり、ベストなアタックができませんでした。ただ車はとてもいい状態ですし、今回はタイヤ交換義務もありますから、チーム総合力で出来るだけ多くのポイントを獲得したいです。

6：福住選手 予選16位 (第1予選B組8位) HONDA 勢7位

予選は風が強く、昨日とは路面コンディションも変わっていましたが、車の仕上がりは非常に良く、予選上位に自信もありました。しかし自分のミスでタイムロスしてしまい第1予選通過することができませんでした。後方からのスタートですが、51周をしっかりと戦って、ポイントを持ち帰ります。



決勝レポート

2020/9/27 Rd-2 岡山国際サーキット

天候：晴れ 気温：25℃ 出走台数：19台

観客数：26日(土)2,000人 27日(日)3,500人 合計5,500人

心配された台風の影響もなく、清々しい秋の天候の下、予選と決勝を同日に開催するワンデー開催として、第2戦岡山国際サーキットを迎えた。

今回 Rd2 岡山戦のレースフォーマットは、タイヤ交換義務付けとなり、51週のレース中、トップが10周目の第1セーフティーカーラインを超えたところからファイナルラップまでにピットインして、タイヤ4輪交換を行わなければならない。

フォーメーションラップ中にスピンした車両が発生したため、スタート進行はやり直し。

1周減算の50周で争われることとなった。

山本選手7番グリッド、福住選手は16番グリッドからスタートした両選手は、1コーナーの多重クラッシュによる混乱をうまく切り抜け、山本選手5番手、福住選手13番手で走行。このクラッシュにより、セーフティーカーが導入され、7周を終えたところでレースは再スタートする。10周目を迎え、初めにピットに入ったのは山本選手。翌11周目には福住選手もタイヤ交換を終え、戦略の違うライバルとの、100分の1秒を削る神経戦が続く。トップグループとのタイム差を意識しながら、山本選手7番手、福住選手は大きくポジションを上げて8番手で走行を続ける。山本選手は終盤に関口選手との激しいバトルを繰り広げるが、これを制することは出来ず、山本選手は6位。福住選手は8位までポジションを上げ、共にポイントを獲得して第2戦を終えた。

5：山本選手 6位 (HONDA 勢1位)

スタートはとてもよく、1コーナーのクラッシュにも巻き込まれませんでした。アウト側にいたため行き場がなく、イン側の車両に抜かれてしまいました。セットアップはとても良かったので、必死でプッシュし続けましたが、トップグループとの差は思う様に縮まらなかったです。しっかりとレースを戦い、ポイントを獲得し、良い部分も反省点も多く得ることができました。菅生までの時間をチームと共に有効に使って、次戦菅生に臨みます。

6：福住選手 8位 (HONDA 勢2位)

スタートの混乱うまく処理でき、タイヤ交換前後の戦略も上手く行って8番手までポジションを上げられたのは良かったです。ただ中盤以降は、思う様にタイムを上げられず、トップ集団に追いつくどころか、後方から追い上げられる展開で苦しかったですね。スタート位置を考えれば、少しでもポイント獲得できたことはポジティブに感じています。全体的にまだまだポテンシャルが足りていません。我々が持つ本来のパフォーマンスを取り戻して、次戦に向けて準備します。